

5月 校長メッセージ

最近大きな本屋さんに行くと、目につく書棚に「2030年 世界の変化」「10年後に残っている職業、なくなっている職業」「AIとロボットが世界を変える」といった種類の本がたくさん並んでいます。新進気鋭の有名な学者の著作もあるので、手に取って読んでみると「なるほど」と思うことがたくさん書いてあります。これだけ多くの近未来の社会に関する本が出版されるのは、多くの人々がこれからの社会に不安をもっているからだと考えられます。

私たちが近未来に不安を感じる要素をあげますと、一つはAIの技術が急速に発達して、人間がやってきた職業をAIが取って代わると考えられているからです。確かに、受付から会計まで全ての対応をAIの搭載されたロボットが行うホテルが報道されると、AIに職業を奪われる不安を感じるのは当然でしょう。PCやネットワークの発達だけでも、将来の社会構造が大きく変化することが予測でき、経験がほとんど役に立たない時代になることは間違いありません。もう一つは、環境破壊と気候変動によって現在の生活が大きく変わってしまうという不安です。地球上のあらゆるところに拡散してしまっているマイクロプラスチックや、温室効果ガスの増加による気候変動は、世界の人口増加とも相まって、安全な食料やエネルギーが十分に供給されなくなるという社会不安をますます増大させています。

皆さんの保護者世代の多くが大学に進学し、職業選択をした1980年から1990年代は日本の経済がとても強い時代で、日本製の工業製品が世界の市場を独占し、日本型の経済成長モデルが世界中でもてはやされていました。「終身雇用」「年功序列」が当たり前で、学生時代に特別な専門知識を身に付けなくても、外国語能力がなかったとしても、就職した後に実地訓練で仕事を覚えて経験を積みさえすれば、社会的な地位も給与も上昇していく社会でした。

だからこそ大人の世代は、必死に今の社会の変化についていこうとして、「2030年」の予測が書いてある書籍を購入します。皆さんは自分の時代の世界は、急激な変化の中で新しい技術や考え方を柔軟に吸収しながら、自分が生きる道を常に模索しなければならないことに気が付いていることと思います。どのような進路に進んでいくにせよ、自分の将来のために、自分の生き方のあり様を自分で決定することができる力を身に付けて欲しいと考えています。言い換えると、「自分の人生を自分でデザインできる力」を身に付けることがきわめて重要ということです。こういう自分に将来なりたいとそれぞれが考えていることが実現できるように、皆さんが毎日の学校生活を積極的に送り、学習と思索を深めることで自分の人生を自己決定できる小石川生であることを期待しています。